

研究課題：がん患者に対する緩和ケアの提供体制を踏まえた在宅療養への移行に関するバリアの分析とその解決策に関する研究

課題番号：H21 ーがん臨床ー 一般ー007

研究代表者 千葉県がんセンター緩和医療科部長 渡辺 敏

1. 本年度の研究成果

課題の「バリア」を、前研究「在宅医の早期参加による在宅緩和医療推進に関する研究」から導かれた以下の3点と規定し、解決に向けて研究を開始した。3点とは、がん治療遂行途上からの緩和医療学的介入の未熟性、在宅緩和ケア遂行の困難性、そして、在宅緩和ケアの優位性に関しての一般市民への啓蒙不足、である。

がん治療遂行途上からの緩和医療学的介入に関して、千葉県がんセンターにおいては、治療病棟入院事例に対する緩和ケア支援チーム介入態勢、および、通院によるがん治療遂行中の症例に対する緩和医療科外来と治療担当科との併診態勢、がすでに確立しているが、さらに、患者側の様々な苦悩をスクリーニングしまたトリアージする機能を持った看護外来や、在宅支援部門も包含した「サポーターケアセンター」を本年（平成21年）4月から稼働させた。

次に、在宅緩和ケアの易遂行性の追求に関しては、すでに全県的に「在宅医懇話会」が組織化され、より専門的な在宅緩和ケアが提供される態勢に進化しつつあるが、加えて、在宅緩和ケア関与事例の経験の少ない診療所医師へのサポートとして、連携パス作成を含めた体制造りを企図した取組を遂行中である。

一般市民への啓蒙については、公開講座の定期的開催が定着した。また、相談窓口としての「在宅緩和ケア支援センター」を千葉県がんセンター内に併置する計画が進行した。

2. 前年度の研究成果

該当なし。

3. 研究成果の意義、および今後の発展

千葉市およびその周辺地域においては、緩和医療期患者の在宅移行のシステムは順調に進化していると判断される。今後は、県内の各拠点病院を中心とした地域的システムの構築に千葉市モデルを普遍化できるよう活動を継続する。具体的研究として、在宅緩和ケアに関する地域連携パスの開発・整備を進める。

また、相談窓口として発足した「在宅緩和ケア支援センター」を院内のサポーターケアセンターと連動させ、そこに本研究の成果を反映させて総合的統括的サポート機能が具備される方向を目指していく予定である。この相談窓口と個々の在宅関連施設（診療所、訪問看護ステーションなど）との情報交換ツールの開発・整備もあらたな事業として研究を進める。

4. 倫理面への配慮

本研究の内容は、最終的には新たなシステムの構築を目的としており、倫理面における逸脱の危惧は必要ないものと考えている。研究の途上において一部において事例検討的研究がなされる可能性があるが、個人を特定できないことに十分な配慮を持って遂行する。

5. 発表論文集

- 1) 坂下美彦、渡辺 敏：緩和医療供給体制について. 中川原章編. がん診療ハンドブック (第二版). 東京：永井書店, 2010 年刊行予定
- 2) Blinderman CD, Sekine R, Zhang B, Nillson M, Shaiova L. Methadone as an analgesic for patients with chronic pain in methadone maintenance treatment programs (MMTPs). J Opioid Manag. 2009 Mar-Apr;5(2):107-14.
- 3) 関根龍一：ベーシックとなる医学的知識と患者の把握 Journal of Clinical Rehabilitation P872-880 Vol.18 No.10 2009.10
- 4) 関根龍一：鎮痛薬としてのオピオイドの使い方を教えてください。増刊レジデントノートVol.11.(別冊): P175-179 羊土社、2009
- 5) 関根龍一：日常診療に役立つ呼吸療法には何がありますか？ Medicina Vol.46 no.10 2009-10.P1691-1696
- 6) 浮谷勝郎：『在宅療養に対する訪問診療体制の確立』、治療Vol.91 (臨時増刊) ,p104,日本プライマリ・ケア学会編集「熟練医から”日常診療のさまざまなコツ”を伝授」, 南山堂, 2009
- 7) 藤田敦子：在宅ホスピス実践シンポ「一人暮らしや介護力が低い人をどう支えるか？」. ホスピスケアと在宅ケア：17(2) 119,2009
- 8) 藤田敦子：オレンジバルーンプロジェクト がんの痛みやつらさを一人で抱えていませんか. 緩和ケア,2009. 11月号掲載予定.

6. 研究組織

①研究者名	②分 担 す る 研 究 項 目	③最終卒業校・ 卒業年次・学位 及び専攻科目	④所属研究機関 及び現在の専門 (研究実施場所)	⑤所属研 究機関にお ける職名
渡辺 敏	研究の統括	北海道大学, 昭50, 医 博, 緩和医療学	千葉県がんセンター 緩和医療科	部長
木下寛也	病棟側緩和医療の研究 精神腫瘍学的研究	金澤大学、平5, 緩和 医療学、精神腫瘍学	国立がんセンター東 病院緩和ケア病棟	医長
児玉賀洋子	行政部分担当	千葉大学、昭53、 内科学	千葉県市川保健福祉 センター	センター長
沖田伸也	在宅医療研究・実践	千葉大学、昭55、 呼吸器内科学 在宅医療	クリニック“あした ば”	在宅担当医
柴田岳三	病棟側緩和医療の研究 (拠点病院)	北海道大学、昭51, 医 博、消化器外科学、緩 和医療学	日鋼記念病院 緩和ケア病棟医	緩和ケア科 科長
木村秀幸	病棟側緩和医療の研究 (拠点病院)	岡山大学、昭47, 医博、 消化器外科学、緩和医 療学	岡山済生会病院 外科、緩和医療科	副院長
大木信子	訪問看護研究・実践	千葉県立保健婦助産 婦専門学院 昭50, 保健師	八日市場市民病院 看護部	看護部長 保健師長
河野秀一	介護支援研究・実践	淑徳大学社会学部 平8, 社会福祉学	渋谷区医師会・渋谷区 ひがし健康プラザ在 宅介護支援センター	介護支援専 門員
藤田敦子	NPO 活動	放送大学教養学部 平成17年卒 生活と福祉	NPO 法人千葉・在宅 ケア市民ネットワー クピュア	法人代表
浜野公明	拠点病院構想のサポ ー	千葉大学、平1、泌尿 器科学	千葉県がんセンター 泌尿器科	経営戦略部 長
野本靖史	拠点病院構想のサポ ー	千葉大学、昭60、医博、 呼吸器外科学、緩和医 療学	船橋市立医療センタ ー緩和医療科	副部長
関根龍一	拠点病院構想のサポ ー	滋賀医科大学、平9、 緩和医療学	亀田総合病院緩和医 療科	医長
浮谷勝郎	在宅医療研究・実践、 地区医師会活動担当	日本医科大学、昭58、 麻酔科学	浮谷クリニック	在宅担当医